



結核を減らすために

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。発症すると、せき、たん、微熱、体のだるさなど、風邪に似た症状がでます。過去の病気と思われるがちですが、今でも新しい患者が発生している重大な感染症です。早期発見・早期治療が重症化を防ぐだけでなく、周囲への感染拡大を防ぐためにも大切です。

下関市の結核の現状

山口県内では年間100人以上、下関市内では年間約30人前後の新規の結核患者が発生しています。

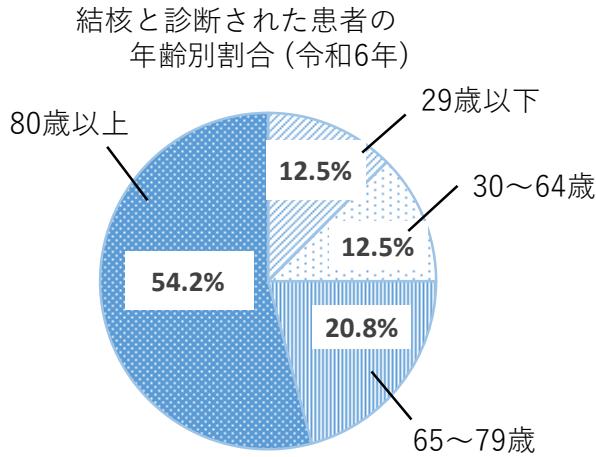
下関市における結核罹患率※は全国や山口県と比較すると、高い状況にあります。

(※ 新登録結核患者数 ÷ 人口 × 10万)

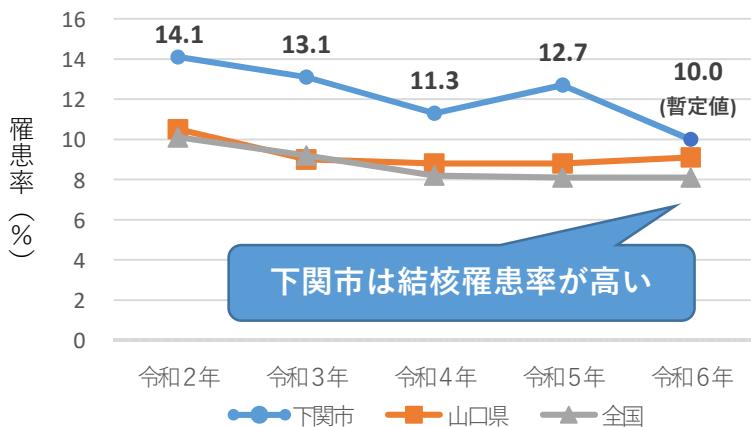
～80歳以上に多い結核！～

下関市で令和6年に発生した結核患者の年齢構成は、65歳以上が7割を占めています。特に、80歳以上の高齢者が多く、患者の約半数を占めています。

結核の早期発見には定期的な胸部X線検査が重要です。特に65歳以上の方は感染症法により、年に1回は検査を受ける必要があります。



結核罹患率の年次推移



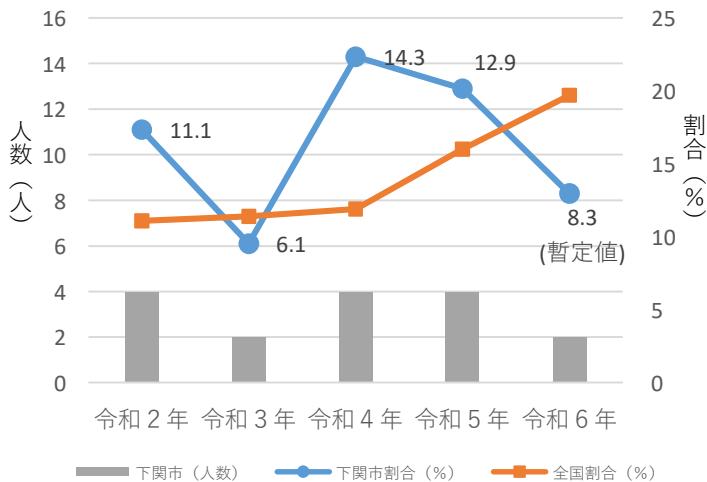
下関市は結核罹患率が高い

～外国出生者の結核～



新登録結核患者のうち外国出生者の割合は全国的に増加しており、下関市では、毎年約1割ほどを占めています。特に、20～30歳代の新登録結核患者のうち外国出生者の割合が高い状況です。罹患率の高い国の出生者が日本滞在中に発症するケースが見受けられます。

新登録結核患者に占める外国出生者の年次推移



施設の皆様へお願ひしたいこと



シールちゃん

～結核は早期発見が大切！！～

結核は、発見が遅れることで、感染拡大につながる場合があります。

早い段階（排菌前）で結核の発病が発見出来れば、人への感染を防ぐことが出来ます

①有症状時の受診の徹底をお願い致します。

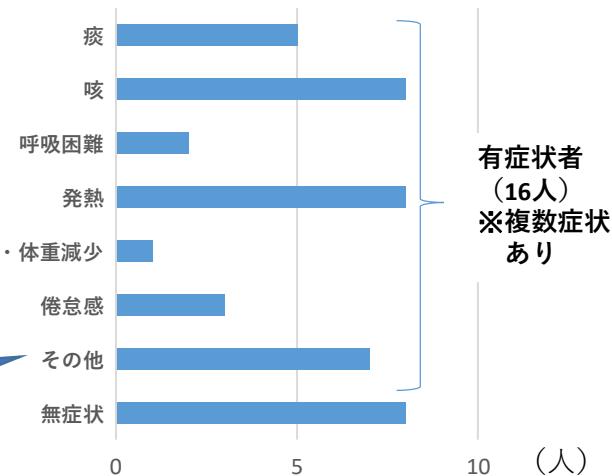
結核を発病すると、咳や痰、発熱など風邪によく似た症状が出るとと言われていますが、下関市においても同様の傾向です。

特に、高齢者では症状がはっきり現れない場合が多く、発見が遅れることもあります。
体重減少や倦怠感等の症状がある場合には、受診の勧め、又は同行をお願い致します。

「その他」には「腰痛、腹痛、リンパ節腫脹、便潜血」があり、呼吸器症状以外の症状から肺外結核と診断される方もおられます。

診断時の症状（令和6年）

N = 24

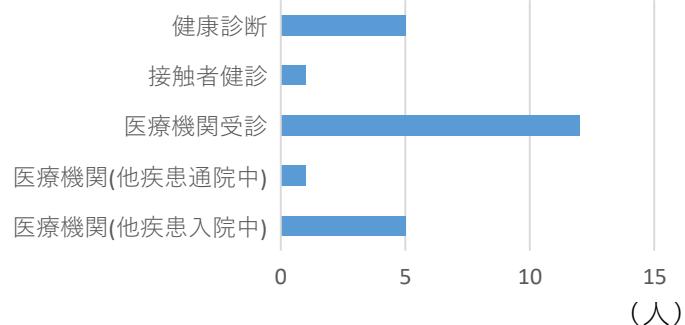


②健康診断（胸部X線検査）の受診をお願い致します。

下関市における令和6年の患者発見方法のうち、健康診断（胸部X線検査）が全体の約2割を占めており、健康診断も結核患者の発見には大切です。

感染症法により、65歳以上の方や、結核を発病した場合感染を蔓延させる恐れが高い集団・職種を対象に、年に1回結核定期健康診断を受けることが義務付けられています。

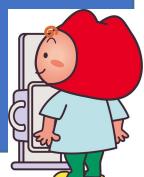
患者発見方法（令和6年） N = 24



定期的に胸部X線を受けていない方が、塗抹陽性（排菌する状態）で診断される事例が発生しております。

特に施設等の集団生活では、結核を発病した場合に集団感染となる危険性もあります。
症状がなくても、胸部X線検査で結核が発見されることがあります。

結核の早期発見、感染拡大防止のためにも、定期的な胸部X線検査の実施が大切です。



シールぼうや

③精密検査の速やかな受診をお願い致します。

健康診断は、病気の早期発見を目的としているため、少しでも疑わしい部分があれば精密検査の対象となります。

結核定期健康診断の対象機関において、精密検査を受診されている方が多数ですが、中には受診されていない方もいます。結核の発見が遅れることで、集団感染に繋がる可能性があります。精密検査対象者には、速やかな受診の勧め、又は同行をお願い致します。